

養育者 - 子ども間相互行為における責任の文化的形成

高田 明

(京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・助教)

【研究の概要等】

本研究では、相互行為における応答の力(ability of response)が基礎となり、子どもと養育者の双方が責任(responsibility)を徐々に発達させると考えて、責任が文化的に形成される仕組みを探求する。具体的には、以下の4つの研究テーマについて様々な文化的集団（日本、アジア・アフリカの諸民族、米国など）におけるデータの収集・分析を進める。1．乳児の規則性を用いた行動の相互調整：乳児の規則的な行動に対して養育者が随伴的に行動を調整していく過程の文化的多様性を明らかにする。2．初期音声コミュニケーションにおける音楽性：養育者 - 子ども間相互行為を音楽的な対話とみなし、初期音声コミュニケーションとそこに反映されている社会制度との関係を論じる。3．乳幼児によるエージェンシーの表示と解釈：モノのやりとり活動において、乳幼児が自らエージェンシーを示すとともに相手が示すエージェンシーを解釈できるようになる過程の文化的特殊性および共通性を明らかにする。4．相互行為としての模倣活動：模倣を一連の行為連鎖からなる活動とみて、子どもがその中で適切に振る舞えるようになる過程および乳幼児の模倣活動を用いた社会的活動の文化的多様性を明らかにする。

【当該研究から期待される成果】

- 1．フィールドワークに基づく長期間の参与観察と緻密な会話分析的研究とを融合させることにより、養育者 - 子ども間相互行為における文化の位置づけを再考する。
- 2．会話実践と社会文化的な論理との関連を探求してきた「言語的社会化」研究の枠組みを拡張し、「会話以前の言語的社会化」を論じることにより、社会文化的な論理の成り立ちや人間の言語使用の基盤を明らかにする。
- 3．様々な文化的集団において子どもが適切な振る舞いに習熟していくと同時に、その周囲の人々が養育行動を身につけていく様子を示すことで、「子ども学」と「親学」を切り離したりマニュアル化したりすることなく、両者が結びつきつつ状況に応じて柔軟に育まれることを示す。

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

- ・ Takada, A. (2005). Early vocal communication and social institution: Appellation and infant verse addressing among the Central Kalahari San. *Crossroads of Language, Interaction, and Culture*, 6, 80-108.
- ・ Takada, A. (2005). Mother-infant interactions among the !Xun: Analysis of gymnastic and breastfeeding behaviors. In B. S. Hewlett & M. E. Lamb (Eds.), *Hunter-gatherer childhoods: Evolutionary, developmental, and cultural perspectives* (pp.289-308). New Brunswick, NJ: Transaction Publishers.

【研究期間】 平成19年度 - 23年度

【研究経費】 10,600,000 円
(19年度直接経費)

【ホームページアドレス】 http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/africa_division/kyoin/takada01.html